

# 私保協ニュース

(No. 33 令和4年10月27日号)

当協会では、今月から開始されることが公表された「オミクロン株対応のワクチン」の接種に関して、保育関係者に対する優先接種の可能性を探るため、先月、会員の皆さんに「新型コロナワクチンの職員接種状況調査」をお願いし、その結果を取りまとめて広島市に提出しました。

広島市との協議の結果、今回、優先接種は時間的に、また、協会内の接種事情に照らしても困難と判断しました。

以下、調査結果と広島市の考え方をご説明します。

(文責:理事長 松尾 竜)

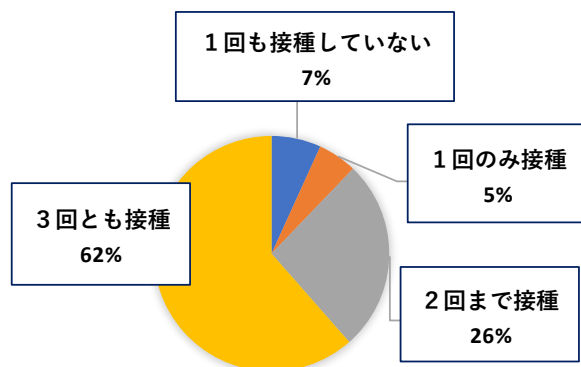
## 新型コロナワクチンの職員接種状況調査集計結果

回答期間 令和4年9月9日(金)～令和4年9月16日(金)

回答方法 グーグルフォーム

回答率: 会員施設189か園中 回答施設139か園 回答率 73.5%

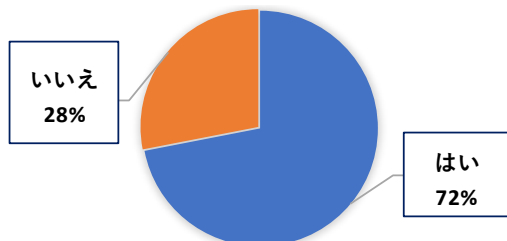
質問1. 職員のワクチン接種状況についてお伺いいたします。(非正規・パートを含む全ての職員)



|            |       |      |
|------------|-------|------|
| 1回も接種していない | 268人  | 7%   |
| 1回のみ接種     | 205人  | 5%   |
| 2回まで接種     | 1031人 | 26%  |
| 3回とも接種     | 2403人 | 62%  |
| 合計         | 3907人 | 100% |

【評価】接種が2回以下の職員が38%と約4割を占めており、接種が予想ほど進んでいない。

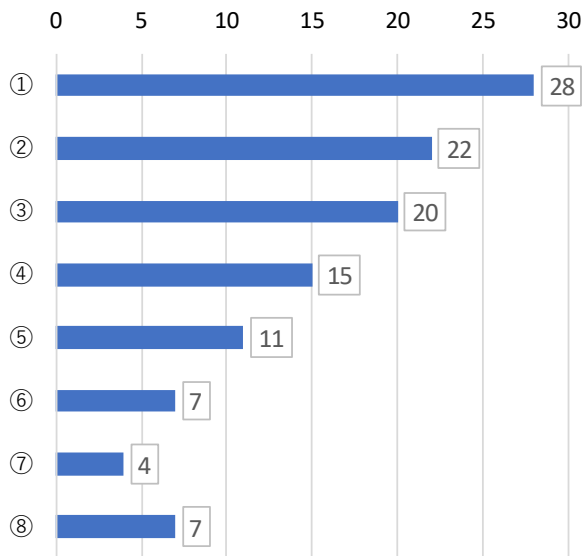
質問2. 9月以降に予定されている「オミクロン株対応のワクチン接種」について、保育関係者の優先接種は必要と思いますか。



|     |      |      |
|-----|------|------|
| はい  | 100園 | 72%  |
| いいえ | 39園  | 28%  |
| 合計  | 139園 | 100% |

【評価】会員施設としては優先接種への期待が大きい。

質問3. いいえを選択された方は、当てはまる理由を選択して下さい。（複数回答可）



|  |      |
|--|------|
| ① 効果が明確ではない。                                     | 28園  |
| ② 職員の意向がわからない。                                   | 22園  |
| ③ 副反応による体調不良で、職員の欠勤・業務の混乱が懸念される。                 | 20園  |
| ④ 副反応の程度や症状についての情報が少ない。                          | 15園  |
| ⑤ しばらく様子を見てから接種させたい。                             | 11園  |
| ⑥ 9月、10月は園の行事が重なり、職員が出にくい。                       | 7園   |
| ⑦ 過去に新型コロナワクチンを複数回接種しているため、新しいワクチンを接種する必要がないと思う。 | 4園   |
| ⑧ その他  | 7園   |
| 合計   | 114園 |

【評価】優先接種への期待が小さい理由としては、ワクチンの効果や副反応が明確でない、職員の意向がわからない、副反応や園の行事との重なりで業務の混乱が心配されるなどが挙げられている。

【その他、優先接種への期待が低い理由・意見】

- ・ ワクチンを3回接種していても半分の職員が感染した（のでワクチンの効果が疑問であるため）
- ・ 「オミクロン株対応のワクチン接種」希望の職員が現段階いないため。
- ・ 職員自身がこれまでの接種後の副反応の経験から、4回目の接種に積極的とは言えない状態のため
- ・ 個人の意思に任せているため。
- ・ ワクチン接種の危険性について重く受け止めているため
- ・ 重症化リスクが下がっており、高齢者を優先した方がよいと思うため
- ・ 職員の半数以上が8～9月に感染したので急がなくても一般の人と同じ時期で良いのではと思うため

「オミクロン株対応ワクチン」の優先接種に関する広島市の考え方

- (1) 今回広島市が公表した接種計画は、高齢者や医療従事者に対する優先接種の開始から一般接種までの期間が約2週間と、これまでの2～3か月と比べて相当短く設定されており、前倒しの実効性が少ないこと。
- (2) 国の接種計画では、自治体が独自に優先接種の対象者を増やすためには、一般接種開始前に高齢者等の優先接種を完了させて空いた日程を利用する必要があるが、広島市は高齢者等の人数が多いため日程を空けることが困難であること。
- (3) 今回の「オミクロン株対応のワクチン」の接種者のうち大部分を占める「60歳未満で3回目の接種終了済者」にはこれまで接種券を送付していないため、この膨大な送付作業の中で保育関係者分を引き抜く作業を完了させる時間の余裕がないこと。
- (4) 保育施設での感染防止のためには保育関係者が揃って接種することが必要であるが、保育関係者にはこれまで優先接種を実施してきたにもかかわらず接種回数が2回以下の人が約4割を占めており、優先接種の実効性に疑義があること。